

intertek

news

Vol.82

ISO関連季刊情報誌(年4回発行)

CONTENTS

01 心がけ、気持ちの持ち方

02 特集 03 仕掛学 — 確実な組織活動のために(1)

～ストレスなく運用できるマネジメントシステムに役立つ
仕組み～

04 News&Topics

- ▶ オンラインセミナー好評開催中
- ▶ サステナビリティページのご案内
- ▶ 審査員会議
- ▶ Information:FSSC 22000 V5.1からV6への移行について

05 審査の現場から

- ▶ お客様紹介
(ゼネラルヒートポンプ工業株式会社)
- ▶ 連載よみもの「審査員の心理」(環境編)
「運用管理(3)」

06 連載よみもの

- ▶ 審査員リレーエッセイ
「5S活動について」
(審査員 菅原 暢宏)
- ▶ 環境とISO14001
「生物多様性条約COP15／生物多様性の危機」

07 お客様からのお便り

- ▶ 「83歳現場代理人活躍中」
(株式会社大台建設)
- ▶ 「持続可能な社会の実現に向けて」
(株式会社京都環境保全公社)

08 研修コースのご案内

- ▶ ちょっといっぶく
- ▶ Information:適格請求書発行事業者登録番号のお知らせ
- ▶ 研修コース案内
- ▶ 受講生からのお便り
(株式会社レゾナック)

インターテック・サーティフィケーション株式会社

発行 大阪事務所

◆バックナンバーは、弊社ホームページにてご覧いただけます。

<https://ba.intertek-jpn.com/>

心がけ、気持ちの持ち方

営業部 東日本エリア 関東地区担当 すずき りゅうじ 鈴木 隆二

日頃より格別のご高配を頂き、誠に有難うございます。

2023年5月から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」の位置付けとなり、コロナ禍前まで当たり前に過ぎてきた日常が少しずつ戻ってきたと感じております。

コロナ禍では、営業活動にも制限があり、オンライン面談への変更、訪問時のマスク着用が必須となっていました。また、訪問した際、面談スペースをパーティション等で仕切られた空間での面談でしたが、現在は間仕切り等が無く、以前のような面談が可能となってきています。但し、訪問先企業でのコロナ感染症対策やお客様のご年齢を考慮の上、訪問時のマスク着用や消毒スプレー等、場面に応じた対応を実施し、営業活動をしております。

今年は全国各地の都市や神社などでのお祭りも多く開催されているようですが、皆様が神社仏閣に訪れる機会はどの位ありますでしょうか。大半の方が、年末年始に今年一年の感謝と新たな年への抱負などを願い、神社等に訪れることが多いかと思います。

私はコロナ禍以前より、神社仏閣を参拝することに関心があり、神社へ時折、参拝に訪れておりました。その中で関東屈指のパワースポットと言われている秩父にある三峯神社^{みつみね}は、これまで訪れた神社の中で、最も多くの「気」をいただける大変貴重な場所だと感じました。日本武尊(ヤマトタケルノミコト)が創始したと言い伝えられており、全国でも非常に珍しい三ツ鳥居で、神の使いは狛犬でなく狼です。標高約1,100mの場所にあり、そこからの景色は絶景で時期によっては雲海も見えます。私も参拝後、とても清々しい気持ちになりました。参拝された方の中には、不思議な良い出来事が起こることがあるようです。

また、これまで訪れた各社で御朱印にも心を惹かれていただくようになりました。後に見返すと、その達筆で力強い字から当時の情景を思い出します。

少しの心掛け、気持ちの持ち方次第で、その日一日がより良い日になることを日々感じております。

弊社もお客様に支えられていることへの感謝と共に今後も日々より良いサービスをご提供できるよう取り組んで参ります。

特集

仕掛学

確実な組織活動のために(1)

～ストレスなく運用できる
マネジメントシステムに役立つ仕組み～

トランジション・サポートセンター
代表

柴田 圭介

0

はじめに

多くの組織では、「運用の計画及び管理」するために、プロセスの実施に必要な作業手順などを明確にし、管理しています。しかし、組織を運用するうちに、当初計画されていた手順が守られなくなったり、実施されていても組織内でストレスが蓄積されるケースがよくあります。これは、組織で決められた手順が組織メンバーにとって、やりたくなるような気持ちをそそるものでないからであると考えられます。

1

「仕掛学」とは

人は、強制をされると、つい反発をしてしまうことがあります。逆に興味を持つことには進んで行動します。これは人が「ホモ・ルーデンス」と呼ばれる遊びを好む生き物であるためとも考えられます¹⁾。大阪大学大学院経済学研究科の松村真宏教授は人が持っているこのような特性に着目し、提唱されているのが「仕掛学」です²⁾。

「仕掛学」とは、「人は面白そうなことを進んで行う」ということに着目し、ついやりたくなるような魅力的な「仕掛け」を用いることで自然と行動を変えていこうという考え方です。

「仕掛け」については過去からも考案されており、その一例としては、男性用小便器に貼り付ける虫のシール

最近メディアで取り上げられることが増えてきた「仕掛学」は、人の行動を変える『仕掛け』を対象にした新しい学問で、様々な分野での応用が期待されています。この仕掛学について、事例を交えながら次号にわたってご紹介いたします。新しいアプローチへのご参照としてお役立ていただければ幸いです。
(編集部)



である「エイミングフライ」があります。このシールはオランダのスキポール空港で考案され、虫を狙って小便をすることで清掃費用を大幅に削減する効果がありました³⁾。また、興味深い動画として「世界一深いゴミ箱」というものがあります(動画URL:<https://youtu.be/qRgWttqFKu8>)。この動画は、フォルクスワーゲン・スウェーデン社が提唱する「The Fun Theory」というプロジェクト活動の一環で行われたものです。そして、このゴミ箱には「ここにゴミを捨てること」というようなルールなどは書かれていません。「世界一深いゴミ箱」とだけ表示されています。そして、このゴミ箱にゴミを捨てると300m近い深さにまで落ちていく音がします(その仕組みは動画を参照してください)。それだけのことで、近くのゴミ箱の2倍以上のゴミを集めることができました。

どちらの例も、「〇〇しなさい」「〇〇すること」といった強制的に行わせるものではありません。ただ「行動の選択肢を面白くして、利用者に自由に選んでもらう」というスタンスで臨んでいるだけです。

マネジメントシステムにおいても、「決まっているから」「これが正しいから」と強制的な従来からあった手順やルールでは、無理を強いていることもあります。そのような手順を見直して、面白そうだからと自然に行えるような手順を提供することで組織の目的を達成しようというのが「仕掛学」の狙いです。

「FAD 要件」

公平性 (Fairness)	誰も不利益を 被らない 仕掛けの目的を知った時に 悪い感情を持たない 
誘引性 (Attractiveness)	行動変容を「強要」しない 自分の意志で自由に行動を 選ぶことができる 
目的の二重性 (Duality of purpose)	仕掛ける側と仕掛けられる側の 目的が異なる  興味の赴くままに「つい」行動してしまう

2

「良い仕掛け」とは

松村教授は、よい仕掛けには「FAD要件」があるとされています。FAD要件とは公平性 (Fairness)、誘引性 (Attractiveness)、目的の二重性 (Duality of purpose) の3つの指標の頭文字をとったものです⁴⁾。

まず、「公平性」とは、「仕掛けによって誰も不利益を被らないこと」ということです。仕掛けとは、何らかの目的をもって設置されるものです。そのために、仕掛けに仕組まれている目的を知った時に、不利益を被ったことに気づき「騙された」と感じるものは良い仕掛けとは言えません。そのような仕掛けでは二度と利用をしてもらうことはありません。

また、仕掛けは設置した人の「このようにしてもらいたい」という想いが前提となります。ただ、その想いが強すぎると、どうしても強制的な仕掛けになってしまいます。それでは仕掛けられた人は無理やりにやらされているという感覚を持ってしまいます。その選択肢を増やした上で、強制ではなくついやりたくなるような「誘因性」を持っていることが大切な要素になります。

そして、仕掛けは設置する側と、仕掛けられる側のそれぞれの立場があります。良い仕掛けの場合、本当の目的は見えないようにできています。仕掛けられた人は、あくまで自分の興味の趣くままに「つい」その仕掛けを使ってみようとしているだけです。上手に本当の目的が

隠されていた場合、その目的が知れた時にもなお一層の興味をもって仕掛けを使ってもらえるようになります。このように、仕掛ける側と仕掛けられる側の目的がそれぞれ違っているという「目的の二重性」を持っているものが良いとされています。

ただ仕掛けを作ってみたというだけで設置した仕掛けが必ずしも良い仕掛けにはなるとは限りません。是非、FAD要件の3つを満たした効果的な仕掛けを考案してみてください。

〈参考文献〉

- 1) Huizinga, j., Homo Ludens: A study of the Play-Element in Culture, Beacon Press (1971)
- 2) 松村真宏、「仕掛け学の試み」、第25回人工知能学会全国大会 (2011)
- 3) リチャード・セイラー／キャス・サンスティーン 著、遠藤真美訳、「実践 行動経済学」、日経 BP 社 (2009)
- 4) 松村真宏、仕掛け学、東洋経済新報社 (2016)

筆者紹介

トランジション・サポートセンター 代表
<https://www.eonet.ne.jp/~transition/>

柴田 圭介 (しばた けいすけ)

1958年生まれ。大阪府立大(現大阪公立大)大学院工学研究科修士課程修了。化学系素材メーカーにて、研究開発、品質管理、事業企画、人材育成等担当、定年後トランジションサポートセンター設立。マネジメントシステムや人材育成など組織の改革を支援活動している。



オンラインセミナー好評開催中

コロナ禍での感染症拡大防止の観点から提供を開始しましたオンラインセミナーは、従来の対面での集合セミナーを再開した現在も、引き続き継続し、内部監査員養成一日コース(ISO 9001、ISO 14001、ISO 45001、ISO 27001)をはじめ、規格解釈一日コースや昨年改訂されたISO 27001改訂セミナーの他、コミュニケーション基礎研修などISO以外の内容も開催しています。定番の内部監査員養成コースでは、対面式と同様、ケーススタディー演習も取り入れた実践的な内容となっており、また、チャットなどオンラインならではの機能も好評で、開催場所の制約もないことから全国から広くご参加いただいております。

対面・オンライン、それぞれの特長に合わせて、使い分けられるお客様もいらっしゃいます。用途やご都合に合わせて、ご活用いただけましたら幸いです。また、オンサイト(講師派遣型)研修は、出張・オンラインのいずれも対応可能です。ご興味がございましたら、弊社ホームページ、もしくはインターテックアカデミー＆トレーニング(TEL:03-4510-2767)までお気軽にお問い合わせください。

サステナビリティページのご案内

サステナビリティへの関心が高まるにつれ、持続可能な社会への取り組みはますます重要になってきています。サステナビリティに対する取り組みには様々なアプローチがあり、インターテックでは、製品やサービス、サプライチェーンの社会的、倫理的、環境的影響の改善を実現するため、お客様の持続可能な発展に向けた取り組みをサポートする様々な認証サービスを展開しております。

この度、インターテックグループのホームページに、サステナビリティサービスのページを新設いたしました。サステナビリティ関連の国際認証や各種プライベートサービスなどをご紹介しますので、ぜひご覧ください。

(<https://intertekjp.com/about/total-sustainability/>)

インターテックでは、グループが掲げる総合品質保証(Total Quality Assured)の体制の下、あらゆる産業に対応するサステナビリティ・ソリューションを提供しております。弊社でお役に立てることがございましたら、サステナビリティ アシユアランスチームまで、お気軽にお問い合わせください。

審査員会議



弊社では、「有益な審査の実現に向けた協議、技術力向上、感度調整」の目的で、定期的に審査員会議を行っております。

今年7月の品質・環境・労働安全衛生合同会議では、審査方針や心得などの感度調整や技術面向上のためのグループワークの他、審査員の専門性拡大教育についての説明もありました。審査員は自身の専門性をインターテックに申請し、認められた業種に関連する組織の審査を行います。様々な業種、組織の審査希望時期に対応するため、審査員は複数の専門性を持つことが理想ですが、従来の専門性認定は、主に審査員の業務経験に基づいていました。今回の拡張方針により、例えば化学・医薬・介護などの資格保有者には、インターテックのウェブ講座を受講、力量評価記録を提出、合格することで、専門性を拡大させることが可能となり、今後の展開が期待されます。

こういった対応や審査員会議などを通して、お客様に付加価値を感じていただける審査ができるよう、日々取り組んでおります。

INFORMATION

～規格改訂情報～

FSSC 22000 Version 5.1 (V5.1) からVersion 6 (V6) への移行について

2023年4月に発行されたFSSC 22000 V6の主な変更点や移行審査に関して、以下ご参照ください。

■主な変更点:お客様に直接係るのは次の2つです。

- ①「FSSC 22000 Part 2 審査対象組織に対する要求事項」の変更(表参照)
- ②「ISO 22003-1:2022」(審査機関に対する要求事項)の改訂に伴うフードチェーンカテゴリーの分類、審査時間の変更

■移行審査:審査は2024年3月31日まではV5.1で、4月1日以降はV6で実施いたします。2024年の審査を4月より前にV5.1で実施した場合、2025年3月31日までにV6移行審査を実施する必要があります。

■非通知審査:第1回維持審査を通知で実施したお客様の第2回維持審査は、移行審査であっても非通知で実施いたします。

V6の日本語版は、予定より遅れて10月には公開される見込みと聞いております(9月初時点)。各自でFSSC財団ホームページよりダウンロードいただき、ご準備ください。

<https://www.fssc.com/schemes/fssc-22000/documents/fssc-22000-version-6/>

ご不明な点がございましたら、食品認証部(03-3669-7420)までお問い合わせください。

項番(赤字の変更箇所は参考和訳)	内容の変更の有無
2.2 スキームの変更と解釈	新規
2.5.1 サービスの管理と購買資材	○(変更有り)
2.5.2 製品のラベリングと印刷方法	○
2.5.3 食品防御	○
2.5.4 食品偽装の軽減	○
2.5.5 ロゴの使用	○
2.5.6 アレルゲンの管理	○
2.5.7 環境モニタリング	○
2.5.8 食品安全文化	新規
2.5.9 品質管理	新規
2.5.10 輸送、保存及び倉庫	○
2.5.11 交差汚染のためのハザード管理と対策	○
2.5.12 PRP 検証	変更無し
2.5.13 製品の設計と開発	○
2.5.14 健康状態	変更無し
2.5.15 機器管理	新規
2.5.16 食品のロスと廃棄	新規
2.5.17 コミュニケーション要件	新規
2.5.18 マルチサイト認証	○

お客様紹介

ゼネラルヒートポンプ工業株式会社様

(ISO 9001:2015認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino



同社が目指す再生可能エネルギー熱によるスマートコミュニティ

ゼネラルヒートポンプ工業株式会社様は、国内における排熱回収型ヒートポンプの先駆者として1984年に創業され、以来、地中熱・地下水熱・温泉排湯熱・空気熱などの再生可能エネルギー熱利用分野での業務用ヒートポンプで業界をリードされ、省エネルギー・環境対策に貢献する製品やサービスを提供されています。2000年に、社会の信頼度、お客様への貢献を目的に、ISO 9001を認証取得されました。現在の認証範囲は「ヒートポンプ及び遠隔監視システムの営業活動、設計・開発、製造、施工、試運転および保守点検」で、本社を含めた国内7拠点で運用されています。審査で提起された改善の機会を継続的改善の材料として取り上げて活かされており、内部監査でも、積極的に指摘事項が提起（不適合、改善の機会計13件）、対応され、システム全体のPDCAを回すタイムリーな手段として、有効的に活用されています。

近年では、高効率水冷式ヒートポンプの新機種「ZQSシリーズ」を発売されました。低GWP（地球温暖化係数）に対応した機種で、

高効率でCO₂排出量も削減、冷暖房能力も同社従来機の約1.5倍と同社過去最高の高能力でより環境に優しい製品

とのことです。ゼネラルヒートポンプ工業様は今後も、「技術革新・環境価値・社会貢献」を経営理念に、人と地球に優しい製品開発に取り組まれていかれるとのことで、さらなる発展に期待です。



本社工場・サービスセンター内部（愛知県名古屋市）

<https://www.zeneral.co.jp/>

連載
よみもの

審査員の心理

第37回（環境編）

「運用管理（3）」

環境主任審査員 大村 敏夫
Toshio Omura

前回は、多くの組織に共通した環境管理項目として廃棄物の管理について述べました。廃棄物については、廃掃法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）による規制に従った管理が主体となります。その他の環境管理項目としての、エネルギーの使用に関わる管理でも、省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）の特定事業者等に該当する組織には、義務規定が適用されますが、省エネへの取り組みの内容については、組織毎に計画することが必要になります。特定事業者に該当するかは、エネルギー使用量の基準があり、この基準に満たない事業者についても、努力規定（判断基準の遵守、エネルギー消費原単位の年平均1%以上の削減）が適用されます。義務規定か努力規定かの違いで、法律の要求には組織毎に強弱がありますが、地

球温暖化の進行、IPCCの報告、COP21のパリ協定（世界の平均気温上昇を、2℃より低く1.5℃に抑える努力をする、という長期目標）を受けて、日本では、2030年カーボン排出量の46%削減、2050年までのゼロカーボン（カーボンニュートラル）達成の目標を表明しています。SDGs（2030年までの17目標）には、「13: 気候変動に具体的な対策を」が含まれています。地球温暖化への対応に対する社会からの要請は強まり、可能な限りの省エネや再生可能エネルギーの活用などの取り組みが望まれます。

カーボン削減やSDGsなどの達成時期や目標値は政治的に定められたもので、ゼロカーボンが達成されたとしても、地球温暖化を止められるという確証はありません。元には戻れない転換点（ティッピングポイント）を既に超えているとの見解もあります。「雑宝蔵経」（ぞうほうぞうきょう）というお経の中に「小鳥の一滴」の話があるそうです。山火事を消すために翼につけた滴を運ぶ小鳥が「消すことは出来なくても、消さなければという自分の想いに正直でありたい」と言い、これを知った天の帝は、大雨を降らせて山火事を鎮めたという話とのこと。

個々の組織や個人の取り組み効果は小さいかも知れませんが、地球温暖化への対策は全人類の課題と言えるでしょう。



審査員リレーエッセイ ⑧

From

和歌山県紀の川市

菅原 暢宏

(すがはら のぶひろ)



Profile

専門分野: ISO 9001・ISO 14001・ISO 45001—電気、機械、金属、樹脂（ゴム・プラ）、一般的な製造業

経歴: 東尾メック株式会社・インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「5S活動について」

和歌山紀の川市の菅原です。前職で、ISO管理責任者及びTPM（全員参加の生産保全）推進者を担っていました。審査経験は2年ですが、前職の活動経験が活かせるように精進しています。私は、多くの組織の5S活動を観て、意味合いや効果の理解が難しいと感じて



います。5Sとは、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」のそれぞれの頭文字の「S」を取ったものです。

1S（整理）により、管理対象（もの・情報・業務）を減らし適正化する→2S（整頓）により、管理を容易にする（機能的且つ使い易さの追求）→3S（清掃）は、清掃点検により異常管理を行う（2Sの維持と劣化防止、見える化の追求で点検レスに移行していくことも重要）→4S（清潔）は、3Sのサイクルを回す→5S（躰）は、3Sサイクルを回すことを習慣付けすること。この5Sを徹底すると、無駄排除等に大きく効果的です。機会があれば、また、ご説明させていただきます。

連載「環境とISO 14001」⑧

「生物多様性条約COP15/生物多様性の危機」

環境主任審査員 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

生物多様性条約は以下の目的達成のために、1992年の地球サミットで気候変動枠組条約と共に締結されました。

①多様な生物とその生息環境の保全

②生物資源の持続可能な利用

③遺伝子資源からの利益の公平・衡平な配分

これを実現するために生物多様性条約締約国会議がほぼ2年毎に開催され、さまざまな原則や措置がなされました。特に目的①の「生物多様性の保全」については「生物多様性の損失速度を顕著に低減する=2010年目標」を採択して取り組みましたが成果は得られませんでした。

2010年の名古屋会議では「2050年自然と共生する社会」を実現するための20項目の数値目標からなる「愛知目標（愛知ターゲット）」を採択しました。

（ここまでの取組み・成果の詳細は本誌vol.29、30、31、32を参照願います）

■ COP15昆明・モントリオール会議

・愛知目標の評価

2022年12月にカナダのモントリオールで開催されたCOP15では、「愛知目標」は「進歩は見られたが完全に達成されたものはない」と評価され、引き続き2030年に向けた「2030年ミッショ

ン」に取り込まれました。また、100万種の動植物がここ10年間で絶滅する恐れがあること、その絶滅速度は過去の大規模絶滅の数百倍に達することが国連政府間科学・政策プラットフォームから報告がありました。

・昆明・モントリオール生物多様性枠組みの合意

「2050年ビジョン」として「自然と共生する社会」を掲げ、その要件として「生態系サービスが保持されることにより健全な地球が維持され、全ての人々に不可欠な恩恵が与えられる」ことが付記されました。

「2030年ミッション」として生物多様性の損失速度を低減する緊急行動のための23項目の目標が設定されました。特に注目される目標は「陸、海の30%以上を保全する（「30by30」）-目標3」と「ネイチャーポジティブ-目標全体」です。前者は現在、世界の陸の17%、海の10%を保護区等で保全しているのを2030年迄に各々30%に引き上げること、後者は生物多様性の損失を止めて増加に転ずることを意味します。その他の重要な目標として「外来生物種50%低減-目標6」、「農薬リスク・プラスチック汚染の低減-目標7」、「食料廃棄・過剰入手の低減-目標16」があります。

■ 気候と生物の二つの危機に取り組む

生物多様性に富む地域は二酸化炭素の吸収量が多いことが知られていて、自然に基づく解決で気候変動の緩和と適応に貢献することが2030年ミッション-目標8に記載されています。つまり、気候変動と生物多様性は密接な関係があるので、2つの活動は統合的に進めることが望まれます。

■ 生物多様性のホットスポット日本

シダ類・種子植物等の維管束植物固有種1500種以上の豊かな自然があつて、多様な生物が生息しているにもかかわらず、絶滅の危機にある地域36か所が世界の生物多様性ホットスポットに指定され、その1つに日本全土が登録されています。維管束植物7000種、脊椎動物1000種以上が確認されていて、固有種率も高く、維管束植物・哺乳類で4割、爬虫類・両性類・淡水魚の8割が日本固有種です。

日本政府は前記の「30by30」を「愛知目標」の後継目標として重視していて、2023年5月時点で、陸域20.5%、海域13.5%を保護地域として認定しています。これに里地里山、水源の森、都市公園、企業保有林、寺社の庭園等を追加認定して、広範な協力を得て目標達成を目指しています。



お客様
からの
お便り

83歳現場代理人活躍中

株式会社大台建設 (ISO 9001:2015、ISO 14001:2015認証登録)

代表取締役社長 福西 克之

No.01
Letter



83歳現場代理人 (左)

当社は、2008年品質・環境ISOを認証取得し、15年運用しています。会社がある奈良県吉野郡上北山村は、奈良県南東部に位置し、東に吉野熊野国立公園に属する大台ヶ原を中心とする台高山脈、西には世界遺産に指定されている「大峯奥駈道」である大峯山脈の山々に囲まれ、その自然あふれる上北山村全域は2016年に「ユネスコエコパーク」、さらに日本遺産にも認定されています。

当村は、数年前、全国紙朝刊トップ記事で、「消滅予想都市人口減ランク」で、北海道の村々を抑えて、国内1位になりました。当社では、今年83歳の現場代理人が、孫のような

県工事の担当者と一緒に頑張っています。

国道緊急維持業務では、台風被害の早期復旧作業の他、先日は、落石防護ネットにカモシカ(天然記念物)が引っかかっているとの連絡を受けて現場に急行、救助作業も行いました。また、すれ違いできない、延長800m無灯火の古いトンネル施工現場では、熊や幽霊の目撃情報もありました。

上北山村は、ヒルクライム(自転車レース)も有名で、世界遺産の中を駆け抜けるコースに集まる多くの選手でにぎわいます。面積の97%が森林のこの村では、他にも自然を満喫できる催しがあります。上北山村に、お越し下さい。



カモシカ救助場面

持続可能な社会の実現に向けて

株式会社京都環境保全公社 (ISO 14001:2015 認証登録)

環境管理室 中村 千恵子

No.02
Letter

当社は、1974年に産業廃棄物の処理会社として京都経済界の共同出資で創立され、1984年に京都市伏見区、京丹波町(旧瑞穂町)で事業を開始し、以降39年にわたり産業廃棄物の適正処理と3Rを積極的に推進してまいりました。1999年にISO 14001を認証取得し、「循環型社会の形成を通じて京都産業界の発展に寄与」を事業目的とし、資源循環の実現に取り組んでいます。

2020年度には、国連の持続可能な開発目標の実現に向け、「私たちは、環境保全事業を営む企業として、常に高い技術と知識を追求し、脱炭素社会および循環型社会の実現に寄与します。」を基本方針としたSDGs活動を本格的にスタートしました。

長期目標として2030年には、サーマルリサイクルを含めたリサイクル率95%以上を目指しています。2022年度には「新3号焼却炉」が竣工し、廃棄物発電による新エネルギー事業を開始しました。廃棄物エネルギーを最大限に

利活用し、廃棄物から生み出した電気の工場内での活用や、隣接企業への熱供給実施を推進するなど、温室効果ガス削減の取組みも加速させます。また、電力販売収入の一部を環境保全活動団体へ寄付し、“住み続けられるまちづくり”に貢献してまいります。また地域の環境保全を推進する人材の育成に向けた、環境教育活動も積極的に展開していきます。



伏見環境保全センター 高効率熱回収施設
(新3号焼却炉：京都市伏見区)

▶ <https://www.kyoto-kankyo.net/>



月8日はようかんの日です。練羊羹(ねりようかん)発祥の地とされる和歌山県で羊羹専門店「紅葉屋本舗」を営む坂井良雄氏によって制定されました。食欲の秋の10月と縁起のいい言葉「八福」にちなみ、また、10と8で「いと(10)おいしいよう(8)かん」の語呂合わせにもなっています。

和菓子の羊羹に、どうして「羊」の漢字が使われているかご存じでしょうか？羊羹は元々は中国のお料理です。その漢字の通り、「羊」の「羹(あつもの:熱い汁物)」＝羊肉を煮込んだ甘くないスープで、冷えるとゼラチンが固まり、自然の煮こごりになります。日本には、鎌倉～室町時代に禅僧によって伝えられましたが、禅宗では肉食が禁じられていたため、小豆や小麦粉、葛粉などを羊肉に見立て精進料理として作られたのが日本の羊羹の始まり(蒸羊羹)といわれています。その後、時代と共に、甘み加わり、寒天を加えて作る現在の羊羹(練羊羹)となったそうです。他にも、羊の肝臓の形を模した「羊肝こう」という中国の蒸し菓子が日本に伝わったときに、「肝」が「羹」となったという説もあるそうです。

羊羹は、あんこを使った和菓子の代表格ですが、少量で高カロリー、体内ですぐにエネルギーに変換され、疲労回復に良いとされるビタミンB1も多く含むことから、スポーツ時の補給食としても人気です。また、真空パックなら未開封で約1年程の長期保存が可能のため、いざというときの非常食としても最適で、災害用の5年保存の羊羹もあるそうです。

非常食といえば、レトルト食品や缶詰などを思い浮かべますが、甘いものやお菓子は、賞味期限も長めな上、強いストレスにさらされる災害時に気持ちも和らげてくれるのでおすすめです。いつも利用している食品や日用品を少し多めに備蓄し、消費分を買い足して循環させるローリングストックは、気軽な防災として注目されています。今年は関東大震災から100年の節目になる年です。発生日の9月1日は防災の日でしたが、10月13日は国連が制定した「国際防災デー」です。身近なお菓子から防災を考える機会にしていだけましたら幸いです。(日本記念日協会、日本あんこ協会、榮太樓本舗、内閣府防災情報各HP)

適格請求書発行事業者登録番号のお知らせ

information

2023年10月1日から「適格請求書等保存方式(インボイス制度)」が導入されましたので、あらためて、弊社の適格請求書発行事業者登録番号をお知らせいたします。※国税庁の適格請求書発行事業者公表サイト (<https://www.invoice-kohyo.nta.go.jp/regno-search/detail?selRegNo=1010001037989>)にて詳細をご確認いただけます。

● インターテック・サーティフィケーション株式会社 ● 登録番号: T1-0100-0103-7989

【お問い合わせ】 東京事務所 ビジネス・オペレーション部門 (03-4510-2775)

Information on training courses

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。(<https://ba.intertek-jpn.com/study/>)

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO 9001 (5日間) / ISO 14001 (3日間) / ISO 45001 (3日間)
- ※ISO 14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

開催地 東京(弊社東京事務所)

- 日程
- ISO 9001・・・10/12 (木)～16(月)
 - ISO 14001・・・11/3 (金)～5(日)
 - ISO 45001・・・12/1 (金)～3(日)

JGAP審査員研修(青果物・穀物)

日本GAP協会認定のJGAP審査員研修です。JGAP審査員への最初のステップです。本研修の修了は審査員補登録要件のひとつです。

日程 ● 東京(弊社東京事務所)・・・12/5(火)～7(木)

ISO 27001:2022コース/オンライン

ISO/IEC 27001:2022 版への移行対応コースです。

- 規格解釈コース
 - 内部監査員養成コース
- 日程 11/15(水) 日程 12/18(月)

※各コースの詳細については、弊社ホームページをご参照ください。

*弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

ISO 45001:2018 内部監査員養成一日コース (オンライン) を受講して

ISO 45001:2018 内部監査員養成一日コース (2023年7月オンライン) 受講
株式会社レゾナック 千葉事業所 環境安全室 室長 吉氏 俊揮

当事業所は、ハードディスクメディアの開発製造を約34年間展開しており、近年SiCパワー半導体用ウェーハの生産も開始しました。2008年にISO 14001、2009年にOHSAS、2020年にISO 45001の認証取得し、運用しております。

今年1月に現職に着任、6月に再認証審査を受審したところですが、安全衛生に関する知識が不足していると考え、今回受講しました。

コースは、規格を半日、演習を交えたリスクアセスメントと模擬内部監査が半日とバランスも良くWEBでも身に付くように工夫されておりました。特に、内部監査シミュレーションでは、不適合報告書や内部監査報告書を完成させることによって、本番イメージがつかえました。また、品質同様PDCAサイクルによる継続的改善の重要性が再確認でき、今後の業務に活かしていきたいと思えます。

インターテック・サーティフィケーション株式会社 <https://ba.intertek-jpn.com/>

東京事務所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋ノーススクエア TEL: (03) 3669-7408 FAX: (03) 3669-7410 E-mail: info.ba-japan@intertek.com

大阪事務所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F TEL: (06) 6150-0571 FAX: (06) 6150-0575 E-mail: info.ba-osaka@intertek.com